
ラスト?クリスマス

サークルO.L.

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ラスト？クリスマス

【Nコード】

N4595Z

【作者名】

サークルO・L・

【あらすじ】

クリスマスがあと数日で訪れる。しかし、主人公は病気でいつ死ぬかもわからない身体。そんな主人公が送る最後の時間を書いた物語。

第一話、病氣と患者。（前書き）

絵は狂風師作。 小説は尖角作です。

もう少しでクリスマスですね。

そんなクリスマスの中で起きる一つの物語をどうぞ。

第一話、病氣と患者。

仕事が終わりに帰ろうと片付けをしていると、そこに龍也たつやがやってきた。

私こと岡本志保おかもとしほは、父と同じく医師として働いている。

> i 3 7 1 9 6 — 2 4 8 5 <

私の家では、大体の人が医療関係の仕事をしていて、母は元・看護師である。

そして、そんな二人が父の病院で出会って私が産まれた。

そんな父の病院で働く私のところに、彼氏である桶中龍也おけなかつたつやはやってきた。

彼「今から、どっか飯でも食いに行くか？」

時刻は20時半、

少し遅めの夜ごはんを食べるために私のところに来てくれた彼に、私は腕組みを後ろでしながら彼の目を覗き込んで言う。

私「どこ行つくの？」

すると、彼はこう返すのである。

彼「焼き鳥屋っ！！」

私「えゝ！また、肉系！？」

そう言っで、私は少しオーバー気味にリアクションを取ってみる。

彼「ダメか！？」

「結構、美味いんだけどな・・・」

そうやって、彼が少し寂しそうな顔をするので、私はニコニコしながら言っであげる。

私「いーよ！」

「じゃあ、着替えてくるから、そこで待っでてゝ！」

そして、私は彼を病院の待合室のイスに座らせてから着替えに向かった。

私「じゃあ、行こっか？」

私はそう言つて、彼の腕に自分の腕を絡ませる。

そんな風に腕組みをして彼にもたれ掛ると、彼は私に向かって言うのである。

彼「何か良い事でもあつたのか？」

私「うーん、、そうだね、、」

「患者さんの病状が、少しだけ良くなってる。」

そうやって、私は笑って見せる。

《けれど、この時の彼は、まだ真実を知らなかった》

《私が言う「患者さん」というのが、私自身だということを》

焼き鳥屋に着いた私達は、店内に入ってカウンターに座った。

彼「どれにする？」　そう言って、彼は私にメニュー表を手渡す。

しかし、私はそれを一瞬だけ見て返した。

私「とりあえず、ピーチハイかな？」

「それ以外の注文は任せたっす！隊長！！」

私達は、そんな冗談を言える仲だった。

けれど、私は

。

第一話、病氣と患者（後書き）

絵を描いた狂風師です。

よく見ると（よく見なくても）中心線がずれてます。
下手です。はい。

描き直したかったけど、同じ絵は描けませんでした。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4595z/>

ラスト?クリスマス

2011年12月21日20時52分発行